

裏面白紙

實

宗秩察總裁

宮内事務官

宗秩察總裁

宮内事務官

大

次宮

中江 塾二 青木内 重四 村五

敘位ノ件

大正五年一月九日達
臺帳記入一月十日官報報告齊

(三十大)

十二

宮内省



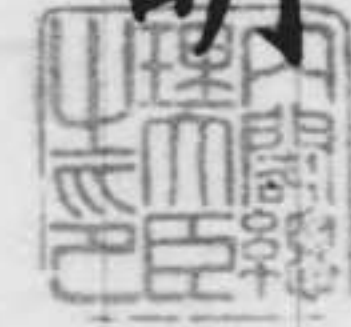
正四位勲二等木内重四郎特旨

叙位ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

大正十四年一月九日

内閣總理大臣爵加藤高明



内閣

閣位 第三號

案 起 奏 第一月九日

裁可	十四年一月九日
決定	年月日
施行	年月日

内閣總理大臣

内閣書記官



内閣書記官



正四位勲二等木内重四郎、明治二十三年七月貴族院書記官、任官以來内務書記官、農商務省事務局長、統監府農商工務總長、同内部次官等、諸官ヲ經テ同四十二年十月一日朝鮮總督府農商工部長官、任セシ翌四十四年七月依願

免官ト爲ラ後又京都府知事ニ任セテ二年余在官二十余年ニ及ヒ其間明治四十四年八月貴族院議員ニ任セラレ現ニ其ノ職ニ在リ此ノ間本人ノ功勞顯著ニシテ殊ニ産業上ノ功績甚ナカラス又日韓併合問題ニ関シ六日夜朝野ノ間ニ斡旋シ實ニ其ノ基礎ヲ成サレタル等本人ノ盡瘁シテ功績洵ニ顯著ナル者、有之候處目下病氣危篤ノ趣、付此際特旨敘位、件上奏相成然ルヘシ

正四位勲二等木内重四郎
特旨ヲ以テ位一級被進

正四位勲二等木内重四郎
敘從三位

内

閣

裏面白紙

拓第	號	大正十四年一月八日午後十一時四十五分受	主任
宛名	内閣拓殖局庶務課長	發信人	朝鮮總督

電報譯文

内閣書記官長宛
貴族院議員木内重四郎ハ明治三十八年十二月統監府農商工務總長ヲ任セラレ後旧官ヲ兼ネ統監府参与官、旧韓國農商工部次官、統監府特許局長及朝鮮總督府農商工部長官ノ要職ニアリ、公十四年七月退官スルニ至ル在、朝鮮六年ノ間、内務行政及産業行政ニ力ヲ竭シ、朝鮮ノ開發ハ内地ノ資力ト知識ヲ招致シテ、鮮人ヲ指導スルノ外途ナシトシ、韓國ノ廟議ヲ勵カシ、國有未墾地利用法ノ

拓殖事務局

發布ヲ促シ姑メテ日本人ニ土地ノ權利ヲ得シメ
次テ工業法漢業法及森林法等ヲ制定シテ
紊亂セル利権問題ヲ解決スルト同時ニ内地人
ノ朝鮮經營ニ關スル基礎ヲ固メ度量衡法及特
許法ノ發布ニ依リ朝鮮經濟共通ノ氣運ヲ進メ
又米作ノ改良、畜牛ノ改良、養蚕棉作ノ奨励
ノ如キ今日隆昌ヲ至セル朝鮮産業ノ基礎ハ公氏
ノ計画及着手スルトコロ、道路ヲ新設シ、水道ヲ
敷設シタルモ亦公氏發案ニ係リ朝鮮創業ノ功
甚大ナルモノアリ殊ニ朝鮮併合問題ノ解決ニ
關シテハ極メテ透徹セル見解ヲ有シ統監府ノ
当局中決然タル態度ヲ以テ之ヲ實現ヲ主張セル
一人者ニシテ之ヲ爲スハ私財ヲ棄テ、顧ミスル

裏面白紙

内解朝野ノ間ヲ奔走斡旋シテ併合ノ措置ヲナシ
其ノ功績顯著ナルモノアリ因下病氣危篤ニ
付特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ且勲一等ニ叙シ旭日章
ヲ授ケラル、様御詮議ヲ乞フ

拓殖事務局

丙午年四月十九日

立案大正十四年一月九日
決裁大正十四年一月九日

宗秩寮書記官

宗秩寮書記官

案

正四位勲三等水内重四郎

特旨ヲ以テ位一級被進

正四位勲三等水内重四郎

叙從三位

宮内省

右之通本日 宣下相成候條此旨及傳達候位記並
辭令ハ進ヲ可及回送候也

大正十四年一月九日

宗秩寮總裁

内閣書記官長



右ノ如シ

裏面白紙

90

一正四位勳二等木内重四郎

右位記並辭令及回送候條交付方御取計有之度候也

大正十四年一月十日

内閣書記官

宗秩

宮内省